

釜ヶ谷窯跡遺跡詳細分布調査報告書

1992

大須賀町教育委員会

例　　言

1. 本書は静岡県小笠郡大須賀町西大渕字釜ヶ谷地内における遺跡詳細分布調査の報告書である。
2. 調査は国・県の補助を受け大須賀町教育委員会が実施した。
3. 調査は平成3年12月24日～平成4年2月20日までの期間おこない大須賀町教育委員会の木佐森道弘が担当した。
4. 本書の執筆編集は木佐森道弘が担当した。
5. 調査に関する資料および出土遺物は大須賀町教育委員会で保管している。
6. 調査体制

　　発掘調査主体者 大須賀町長 大石高

　　教育委員会 大須賀町教育委員会教育長 金原與四郎

　　事務局 教育委員会事務局長 大久保忠彦・派遣社会教育主事 佐々木文雄

　　社会教育係長 大石武夫・主査 杉山英二・主事 大場静昌、平野智久

　　社会教育指導員 山口治・主査 木佐森道弘（調査担当者）

7. 発掘調査の実施に際しては、菊川町教育委員会の塚本和弘氏、釜ヶ谷区画整理事業設立準備委員会より多大なご教示ご協力をたまわった。記して感謝の意を表する。
6. 発掘調査の参加者は以下のとおりである。

　　岡田賢一・宇佐美新・杉山朝雄・藤田長吉・服部惣一郎・戸塚重一・進士高逸

　　藤山喜代志・宮田力・金丸久子・佐々木はるみ・寺澤美恵子・井口静恵・宇佐美敏子

　　瀧美幸・加藤きぬ枝・土屋ふみ子・佐野いと・堀江つね・赤堀一江・辻原祥子

目 次

第1章	遺跡の位置と環境	1
第2章	調査経過	2
	第1節 調査にいたる経緯	2
	第2節 調査の経過	3
	第3節 調査方法	3
第3章	発掘結果について	5
	第1節 発掘調査概要	5
	第2節 遺物について	8
第4章	まとめ	8

挿 図 目 次

第1図	遺跡位置図	1
第2図	トレンチ設定図	4
第3図	トレンチ構造実測図	6
第4図	遺物実測図	7

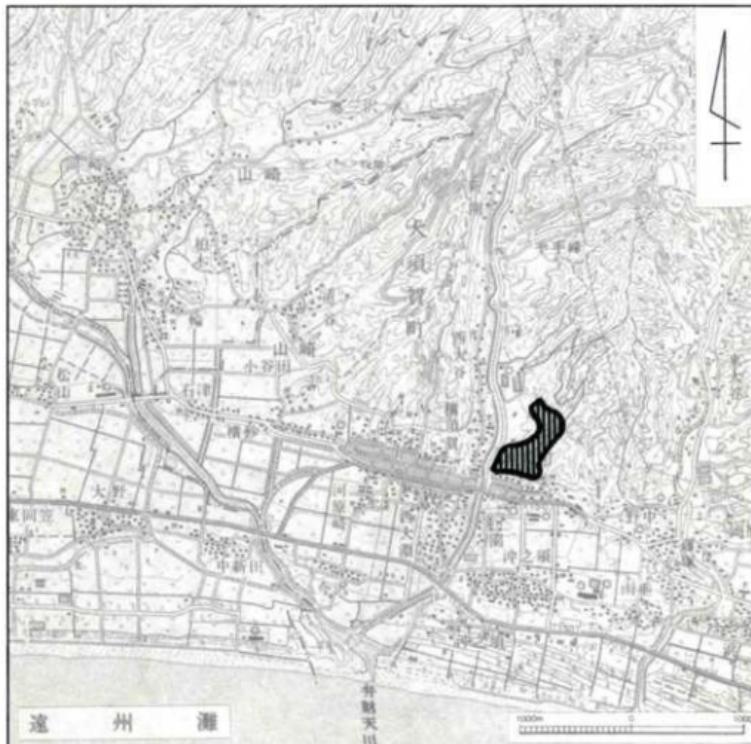
図 版 目 次

図版 1	1 発掘地域全景南（西より）	2 発掘地域全景北（西より）
図版 2	1 作業風景（西より）	2 A-3 トレンチ完掘状態（西より）
	3 A-10 トレンチ完掘状態（南より）	
図版 3	1 A-7 トレンチ完掘状態（西より）	
	2 B-2 坪掘りトレンチ完掘状態	
	3 C-1 トレンチ完掘状態（西より）	
図版 4	1 D-2 D-3 トレンチ掘削状態（南より）	
	2 C-2 トレンチ北側斜面灰原露呈状態	
	3 灰原遺物出土状態	
図版 5	遺物写真	図版 6 遺物写真

第1章 遺跡の位置と環境

大須賀町は静岡県の中央部やや西よりに位置し、古大井川の堆積物が隆起してきた小笠山丘陵の南半と、その南面に広がる遠州灘とに挟まれた東西に長い沖積平野からなっている。

近世の城下町横須賀地区の町並みと、古村落、西大渕地区の中心集落が立地する扇状地を形成しながら南流する西大谷川の支流である小川（ちいがわ）と、その両側の尾根一帯が今回の調査対象地域である。名前のとおりの小さい川を挟む南側と北側の二つの尾根上には広い部分で幅50m 程の平坦面があり、茶畠として耕作されている。また尾根斜面は大方傾斜地で山林原野となっているが、部分的に河岸段丘状の平坦面が認められ茶畠となっている。現状で山林となっている



第1図 遺跡位置図

傾斜地も以前は畑として耕作されていたらしく階段状の段耕の跡が残り、山林の間に茶、果樹等が放任され残っている。

大須賀町内には奈良時代から平安時代にかけての窯跡群が多数確認されていて清ヶ谷古窯跡群として有名である。その主体は町の西部に位置する清ヶ谷地区に集中するが、樹木ヶ谷古窯跡群、釜ヶ谷古窯跡群の2支群が東に飛び離れて存在する。そのうち最東端に位置するのが釜ヶ谷窯跡群であり、清ヶ谷地区の主体部分から2km程東に離れている。釜ヶ谷窯跡群は3地点で遺物を表面採集する事ができる。そのうちの西地点は斜面に灰原が露呈し、遺物も多量に表探できる事から以前からよく知られていた。中央と東端の表探地は遺物が希薄で顯著でない。特に中央の表探地は段丘状の平坦面に遺物が希薄に散在するだけであって、工人の住居跡等の関連施設も考えられる。窯跡の関連施設については小川沿いの平坦地も考えられる。この部分は石壘状の土手により区画されている。これは畑の耕作に間わる猪土居状の施設と思われる。釜ヶ谷の地名の由来についてでは窯跡のある谷の意とも、焼場（火葬場）のある谷の意ともいわれている。（昭和30年代まで釜ヶ谷地区の入口部には火葬場があった）近世の諸記録に釜ヶ谷掃除の記録が出てくる。何の掃除なののかはっきりしないが当時から火葬場があって、その掃除をおこなっていたと考えられる。また罪人の仕置きが釜ヶ谷でなされたとの記録も残っている。ちなみに釜ヶ谷地区は横須賀の町並み西大渕地区の中心からみて東北の方角に位置する。

第2章 調査経過

第1節 調査にいたる経緯

釜ヶ谷地区は、町役場・小中学校等の公共施設が集まる町の中央部に位置する。全域は畑、山林原野として利用されているが、交通の便の悪い尾根上の平坦面や傾斜地の畑を中心に荒地が増えている。浜松市と静岡市の中間部である東中遠地域（遠州の東部と中央部）は、近年交通網が整備されつつあり工場等の進出も盛んである。以上の社会情勢を受け近隣市町において住宅地の造成や人口の増加が顯著である。しかし、大須賀町ではここ数年来人口の伸びは停滞気味で微増微減をくりかえしている。したがって町民からも住宅地造成と人口増を望む声が聞かれる。前述のとおりこの地区は町の中心部に位置するため周辺部は宅地化が進んでいる。このような流れを受け5～6年前からこの地区の区画整理事業が計画され、昭和61年10月には区画整理組合設立準備委員会が設立された。以後対象地域の地権者の仮同意が餘々に得られるにしたがい組合の正式設立に向け、具体的に進められていく事となった。事業の進捗に伴い組合設立準備委員会と関係各機関との話し合いがもたれた。その一環として事業施行予定地内の文化財についても町教育委員会と再三の話し合いがおこなわれ、町教育委員会からは周知の遺跡として釜ヶ谷窯跡群が存在し、また、その周辺には未知の遺跡が存在する可能性が考えられるとの回答をおこない、合わせて事業施行にあたって事前に発掘調査が必要な事、さらに、発掘調査の実施に際しては遺跡の分布状況を把握するため事業施行予定地の全域にわたって遺跡詳細分布調査の必要性を伝えた。

以上の話し合いが進み、組合の設立準備、事業の実施が近づき、平成3年度の事業として遺跡詳細分布調査を計画し、国庫補助事業として採択された。これを受け町教育委員会と組合設立準備委員会と協議を重ね、平成3年11月13日準備委員会の役員立会いのうえで対象地域内全域にわたって踏査をおこない分布調査を実施する地点を選定し、合わせて、地番、所有者の確認をおこなった。この結果に基づき平成3年11月20日付けで所有者宛に遺跡詳細分布調査実施のお願いの文書と発掘承諾書を発送した。承諾書の回収にともない、12月16日17日の両日対象地の伐開をおこない伐開地の片付けが済み、暮れもおしつまつた12月24日から発掘調査を開始した。年が変わった1月6日より本格的に調査を開始した。

第2節 調査の経過

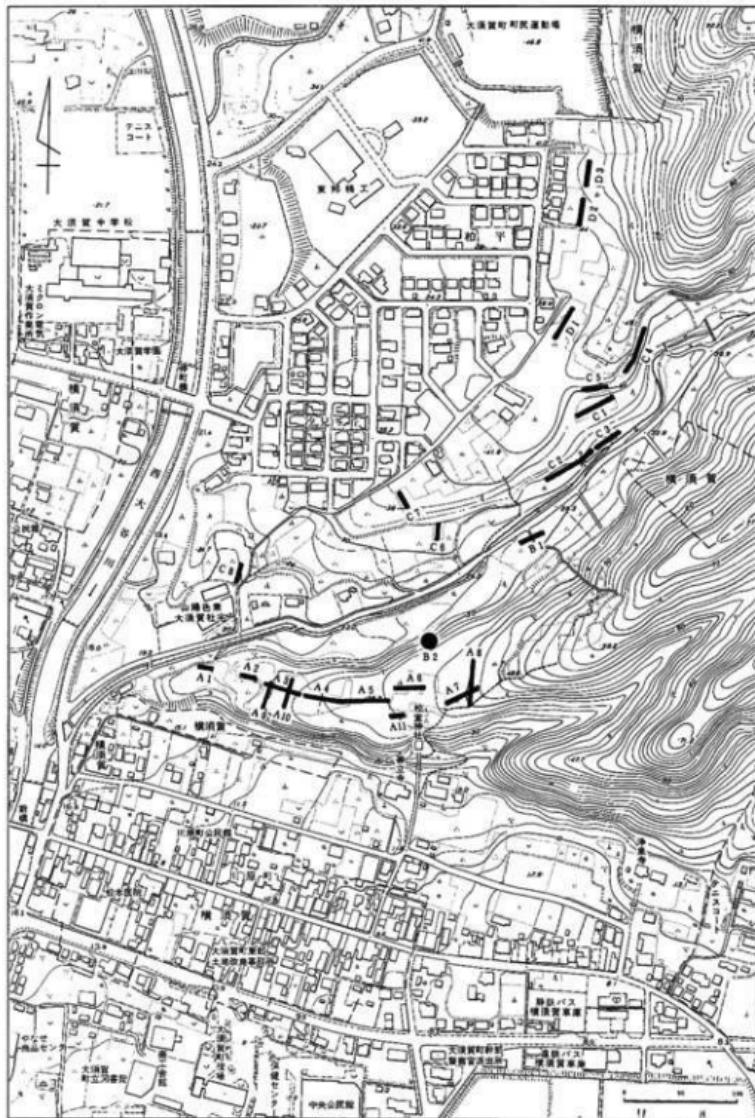
調査の経過は以下のとおりである。（調査日誌抄）

- ・ 平成3年12月17日 伐開作業
- ・ 平成3年12月24日 発掘調査開始
- ・ 平成4年1月6日 平成4年発掘始め
- ・ 平成4年1月7日 南尾根区域（A区）トレンチ群掘削開始
- ・ 平成4年1月7日 南尾根北側斜面（B区）B-2トレンチ坪堀灰釉陶器出土
- ・ 平成4年1月20日 北側尾根南斜面（C区）トレンチ群掘削開始
- ・ 平成4年2月14日 北側尾根上平坦面（D区）等伐開作業
- ・ 平成4年2月15日 北側尾根上平坦面（D区）等トレンチ群掘削開始
- ・ 平成4年2月15日 C-5トレンチ灰原検出（灰釉陶器出土）
- ・ 平成4年2月20日 現場作業終了

第3節 調査方法

調査地域は小川を挟む二つの尾根とその斜面一帯で、全体総面積（区画整理事業計画面積）は164,675m²である。前述のとおり対象地域内には灰釉陶器の表採地が3ヶ所知られ窯跡の存在が考えられる。また、その周辺に窯業関連施設の存在も考えられるため、遺物表採地およびその周辺にトレンチを設定した。さらに尾根上の平坦面についても集落跡、古墳墓等の存在が考えられるため、尾根の長軸を主にトレンチを設定した。特に幅の広い平坦面部分については長軸トレンチに直交するような形でトレンチを設定した。ただし茶畠部分については耕作の関係もあり設定が不可能だった。南側尾根上の平坦面については荒れた畑が多く東西に長く尾根上をカバーできた。しかし、残念ながら最も幅の広い平坦面（松室神社裏の平坦面、A-6、A-11トレンチを設定）については長軸のトレンチに交差するような形で入れる事はできなかった。

北側尾根上の平坦面は交通の便が良いため耕作されている茶畠が多くトレンチを設定できる部分は少なかった。その他、畑の状態や期間等の制約から長いトレンチが設定できなかったものの狭い空き地等に適宜設定した坪堀りトレンチが各所にある。そのうちで南尾根北側斜面の谷間



第2図 トレンチ設定図

の竹林では、灰釉陶器の小片が採集できる事から坪掘り状のトレンチを3ヶ所設定した。（B-2トレンチ）今回のトレンチの幅は160cmを基準とした。また、掘削は人力でおこなった。重機を使用して能率を上げたかったが、地形的な制約で搬入できなかった。特にA地区については重機を搬入するべく努力したがあきらめた。B-1、C-2トレンチのみ重機を利用して掘削した。

今回の調査では便宜上、下記のとおり地形により地区を区分し、地区別に掘削の早い順に番号を付しトレンチの名称とした。

- A地区 小川南側斜面尾根上の平坦面
- B地区 小川南斜面の北側斜面
- C地区 小川北側尾根の南斜面
- D地区 小川北側尾根上の平坦面

第3章 発掘結果について

第1節 発掘結果の概要

今回の発掘調査の結果をトレンチごとに述べる。

A-1トレンチ A地区的先端部分に位置し、現状は素烟となっている。表土の直下は地山の小笠山疊層で何らの遺構遺物の出土もみなかった。

A-2トレンチ A-1トレンチより一段高い平坦面の先端部に位置する。遺構遺物は検出できなかった。

A-3トレンチ 現状は荒れた茶畠で、東端部分で野溜めを3基検出した。2基はたたき製1基は素掘りの野溜めである。畠の耕作に関連する施設と考えられる。その他は畠の境界溝が検出されたのみである。

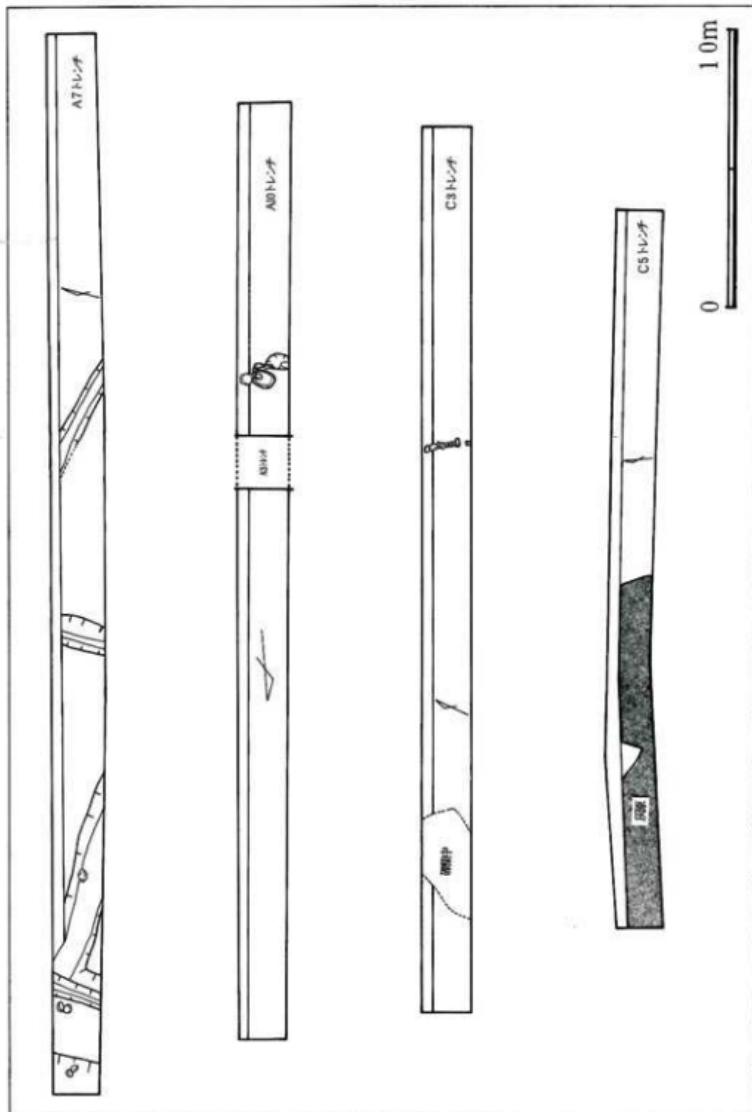
A-9、A-10トレンチ A-3トレンチに交差するトレンチである。A-10トレンチで畠の溝と思われる溝を検出した。ただし、いさか畠の溝としては疑問の点がある。また、A-9トレンチでカワラケと思われる小片が出土しているが土師器の可能性がある。

A-4、A-5、A-6、A-11トレンチ 現状は荒れた茶畠で、いずれも表土の直下が地山層となり畠の境界以外は検出されなかった。しかし、A-6、A-11の平坦面は最も幅の広い平坦面で南端沿い等に、何らかの遺構が存在する可能性は考えられる。

A-7、A-8トレンチ 梅、ミカン等の果樹と放任された茶畠となっている。特別な遺構は検出されなかったが、A-7トレンチの西端では畠の境界とは考えにくい溝がいくつか検出されていて、何らかの遺構の可能性が考えられる。

B-1トレンチ 南側の道路沿いのトレンチで現状は荒れた茶畠となっている。遺構遺物はなかった。

B-2トレンチ 南側尾根の北側斜面の谷間の竹林で、調査の途中に踏査をおこなったところ



第3図 トレンチ遺構実測図

灰釉陶器の小片が採集できたため、急速、坪掘りトレンチをいた。谷底が階段状になっているため下段から三段目まで三箇所に坪掘りトレンチを入れた。灰釉陶器、窯体片等が少量出土している。その後、度々谷中を踏査したが灰原等は発見できなかった。しかし、少量ながら遺物が出土しているので谷間のどこかに窯跡等の遺構が存在していると考えられる。ちなみに、清ヶ谷古窯跡群の窯跡は尾根の南側斜面のものがほとんどで、北側斜面に立地するものはほとんどない。釜ヶ谷についても北側尾根の南斜面以外で灰釉陶器が表採された記録はなく窯跡が存在するとすれば未見の遺構である。

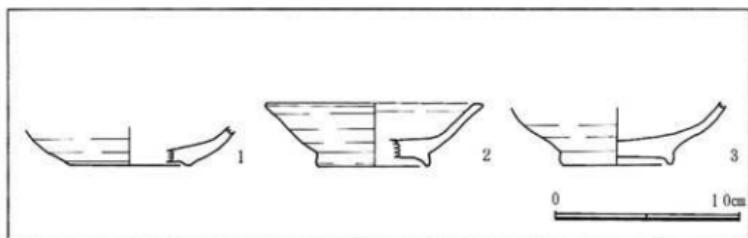
C-1 トレンチ 北側尾根の河岸段丘状の平坦面にある茶畠である。以前から遺物が表採され窯跡あるいは関連施設の存在が言わされていた。茶畠として耕作されているため中央に一本トレンチを入れたのみである。遺物は灰釉陶器が數点検出されたのみで顕著でない。遺構的には畑の境界が検出されただけである。

C-2 トレンチ 小川の北側で荒れた山林となっている。以前は畠だったようで放任された茶畠が点在していた。遺構的には中央部分でたたき製の野溜めが検出されただけである。ただしこの地点は砂質の表土の直下に30cm程の砂利層が乗り、更にこの下から黒色土層がみられる。したがって何らかの遺構が検出される可能性がある。遺物的には北側の斜面から崩落した（北側斜面上部に灰原が露呈している）灰釉陶器が數十点出土している。

C-3 トレンチ C-2 トレンチの東側に設定したトレンチである。遺物としては特別な物は出土していない。遺構としては畑の境界と考えられる低い石垣が出土している。

C-4 トレンチ 北側尾根の南側斜面である。以前から下の茶畠で灰釉陶器が採集され窯跡の存在が知られていた。耕作の関係から段耕の最上段の畠にトレンチを設定した。遺物はほとんど出土しなかったが、窯体の一部と考えられる焼土が出土している。したがって下の斜面および茶畠に窯体が存在すると考えられる。

C-5 トレンチ C-1 トレンチ北側の斜面部分にあたる。C-1 トレンチを設定した茶畠で以前から遺物が採集されていたので窯跡が予想されていた。残念ながら遺構として窯体を検出する事はできなかったが、灰原を検出し、灰釉陶器、窯体片、窯道具等の出土をみた。このトレンチの上部の斜面に窯体があると考えられる。また、このトレンチの西側に坪掘りトレンチを二箇



第4図 遺物実測図

所入れたがいざれからも灰釉陶器の出土をみているので、この斜面には複数の窯跡が予想される。その他、灰釉陶器の灰原中より古墳時代の須恵器片が3点出土している。したがって周辺に古墳時代の遺構が存在するらしい集落跡、古墳等の存在も考えられるが窯跡の可能性もある。

C-6 レンチ C-7 レンチ 尾根の西側に位置するいざれも荒れた茶畠となっている。遺物遺構とも検出されなかった。

C-2 レンチ北側斜面 灰原が斜面に露呈して遺物が多量に表採できる事から以前から複数の窯跡の存在が考えられていた地点である。

D-1 D-2 D-3 レンチ 北側尾根上の平坦面に設定したレンチで、荒れた茶畠となっていた。いざれも特別な遺構は検出できなかった。遺物的にはD-2 レンチで志野皿が1点出土している。この部分は茶畠の改植により1m以上の深さで天地返しを受けており遺構は何ら検出できず遺物も少數出土しただけである。この付近は柏平と呼ばれる中世の居館があったとも言われているので今後遺構が検出される可能性がある。

第2節 遺物について

前の節で述べたとおり今回の調査ではB-2 C-1 C-2 C-4 C-5 レンチで灰釉陶器が出土している。その他のレンチでは近世の陶磁器片が少量出土した。いざれも小片のみであるがそのうちから3点を図示した。

1はD-2 レンチで出土した志野皿である。2、3はC-2 レンチで出土した灰釉陶器である。なお、C-5 レンチからは古墳時代の遺物が少量出土している。

第4章 まとめ

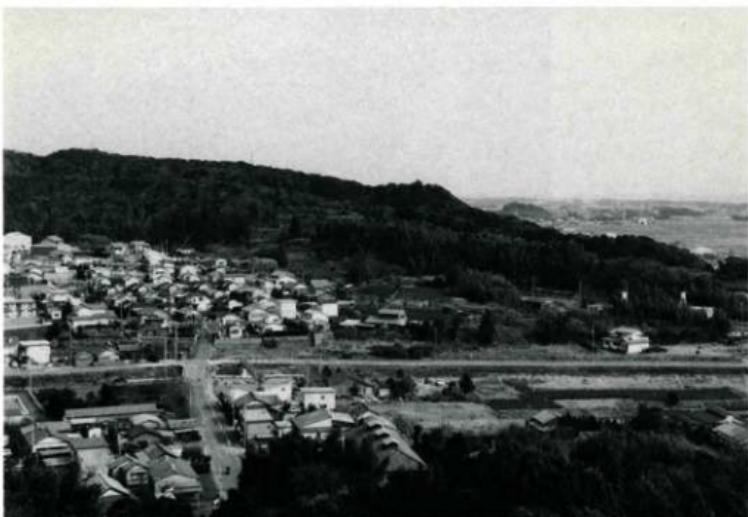
今回の調査は遺跡詳細分布調査であるため、調査対象地域164.675 m²の全域を網羅する調査に心がけたが、地形、耕作等の制約により全面的に漏れなくとはいかなかった部分もある。しかし地形等から遺跡の存在が予想される部分については大方レンチを設定する事ができた。その結果から予想される遺跡の分布状況を述べる事とする。まずA地区（北側尾根の南斜面部分）についてはC-1 C-2 C-4 C-5 レンチで灰釉陶器が出土している。特にC-2 レンチの北側斜面の上部には灰原が露呈していて複数の窯跡が予想される。また、C-5 レンチにおいても灰原の検出と多数の遺物の出土から複数の窯跡が考える。そして、C-4 レンチにおいても窯体の一部と考えられる焼土が分布しており、窯跡の存在が考えられる。以上からこの地域の斜面およびその下場にあたる小川沿いの平坦面さらに上面の平坦面の縁部分には複数の窯跡群とその関連施設の存在が予想される。その他窯跡関連の分布域としてはB-2 レンチを設定した竹林のある谷間（南側尾根北側斜面）で灰釉陶器と窯体の一部が出土しているので窯跡や関連施設の存在が予想される。以上にC-5 レンチの灰釉陶器の灰原中より古墳時代の須恵器が3点出土している。したがってこの周辺に古墳時代の遺構が存在すると考えられる。その性格については現状ではなんともいえないがレンチの斜面の上面には柏平と呼ばれる平坦面が広がって

いるでこの平坦面の縁部分に集落、古墳等の遺構が存在し、その遺物がこの斜面へ崩落したとの考えもありたつが、立地を考えると古墳時代の窯跡の存在の可能性も高い。大須賀町内には多数の窯跡が存在するがその殆どは平安時代の灰釉陶器の窯であり、一部、奈良時代の須恵器窯が存在するが、古墳時代までさかのぼる窯跡は見つかっていない。今後の調査が楽しみである。その他ではD-2トレンチを設定した平坦面で居館跡等の中近世の遺構の存在が予想される。南尾根の平坦面でははっきりした遺構、遺物は検出されていないがA-3トレンチA-7トレンチを設定した平坦面については遺構が存在する可能性がある。今回の調査により判明した予想される遺跡は以上であるが、今回調査できなかった部分の内で南尾根の南斜面部分については沖積平野を望む南向き斜面である事から横穴等の遺構も考えられる。今後実施される予定の本格的な調査では以上述べた部分、特に窯跡とその周辺において多くの知見が得られるものと期待する。

[参考文献]

- 大須賀町教育委員会(1979)『清ヶ谷古窯跡群白山窯跡』
- 沼津市教育委員会(1986)『豆生田遺跡詳細分布調査』
- 沼津市教育委員会(1986)『雄鹿塚遺跡詳細分布調査概報』
- 島田市教育委員会(1987)『居倉遺跡発掘調査報告書』
- 袋井市教育委員会(1997)『袋井市三沢古墳群』

図版 1



1. 発掘地域全景南（西より）



2. 発掘地域全景北（西より）



1. 作業風景
(西より)



2. A-3 トレンチ
完掘状態
(西より)



3. A-10 トレンチ
完掘状態
(南より)

図版 3



1. A-7 トレンチ
溝完掘状態
(西より)



2. B-2 坪掘り
トレンチ
完掘状態

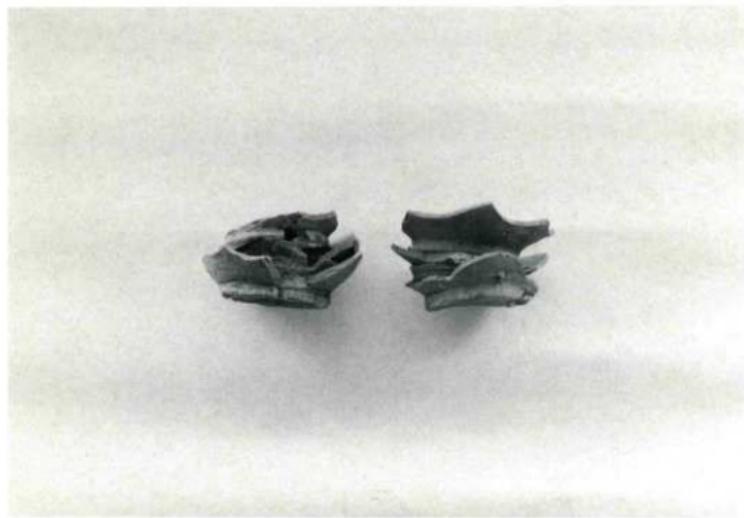
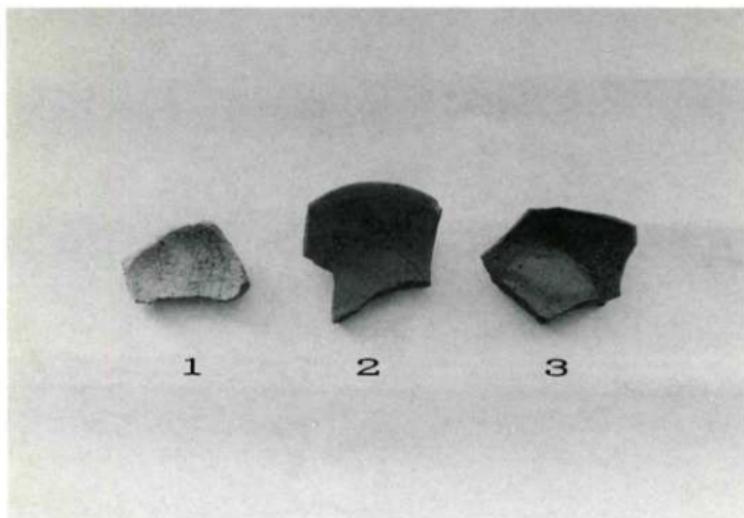


3. C-1 トレンチ
完掘状態
(西より)

図版 4

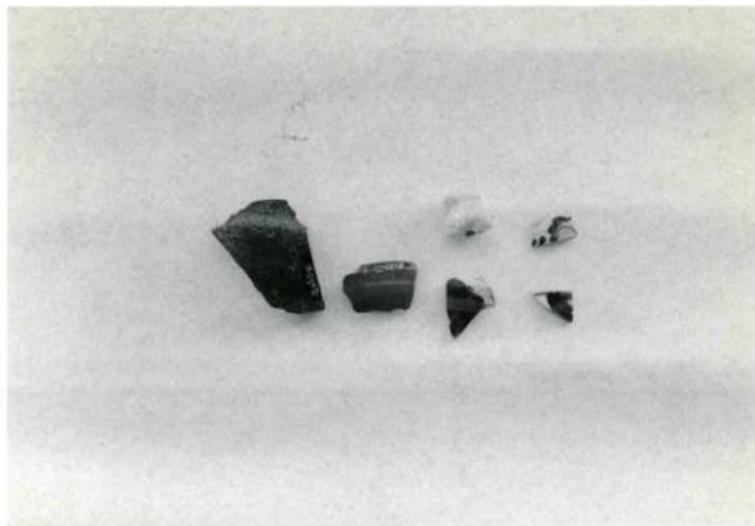


図版5



遺物写真

図版6



遺物写真

釜ヶ谷窯跡遺跡詳細分布調査報告書

1992年

編集 大須賀町教育委員会

静岡県小笠郡大須賀町西大渕100

TEL (0537) 48-3111

印刷 衛デザイン エム・エス・シー

静岡県袋井市久能1977の7

TEL (0538) 42-3164

